

# KOCHI 2012 ROTARY 2013 CLUB SINCE 1937



2012-13年度国際RIテーマ

## 週報



Weekly report 第3118回 2013年3月19日 2013年3月26日発行

### ● 会長挨拶



皆さんこんにちは。ソングリーダーの小寺さん、田中さんに引き続いて転勤が決まられたということで、今日が最後のソングリーダーになったようで、お疲れさまでした。

日曜日の地区協議会、無事に終了しました。ご参加の皆さん、本当にお疲れさまでした。高知クラブの団結力を見せたりっぱな地区協議会だったと思います。

ご存じのとおり、土佐高校が高知高校とともに甲子園に出場し、今度の日曜日、浦和学園と対戦します。私の同級生達が大学、全国から駆けつけてアルプスに行くということで、私も行ってきます。恐らく負けますので、その夜は梅田のビヤホールを貸切って残念会をすることに決めています。しかし、日本人の野球人気は高いなとつくづく感じます。野球のもう1つの話題、WBC準決勝敗退について、テレビや新聞で繰り返し報道されるあの8回の攻撃を聞くにつけて、どうも納得できない気分がします。勝負には流れというものがある、必ずその流れに乗らないと勝てない。途中で竿さして狂わせると負けてしまうのはどのスポーツも同じだと思います。昨日の試合で、日本チーム反撃の最も大切なポイントであった8回の裏に、山本浩二監督の出したサインは「いけるならいってよい」というWSチールのサインだったそうです。私には理解不能です。なぜなら、この指示は安全が確認できたらリスクを冒してもよいという、全く矛盾したことを言っているのと同じです。

どんな組織であれ、リーダーがこんなあいまいな指示を出したら、部下は気力を持って動くことはできないのは明らか

です。一昨年の福島原発事故の際、命がけの撒水飛行をしようという自衛隊機。その派遣に対して政府高官が「統合参謀本部の自主的判断によって」というバカなことを発表しました。違法行為で逮捕した中国漁船の船長の釈放を「那覇地検の判断で」とも言いました。この国の情けないリーダーたちの、あの言い方と山本監督の行動は何等変わることはないような気がします。

PKOに派遣された自衛隊員は、どんなに危険が迫っていると分かっている、仲間が撃たれて死亡するまでは攻撃してはならないという武器使用規定に縛られています。シビリアンと称する方々やマスコミの責任は重大です。以前にも言いましたが、日本人のものの見方には、あらゆるものの決定に無責任な衆愚システムというもの、民主主義という誤解だらけの罠が潜んでいるように思います。

私はいつも、うちの社員たちに会社の経営に、あるいは運営に民主主義はない。もし軍隊で戦闘に向かう際、多数決でものを決めるなどということになったら、必ず全滅する。と言います。どうも日本人はあらゆる決定作業に民主主義なるものが優先して、それがいつでも正しいと思っている節があります。運動会の駆けっこで手を繋いでゴールインさせるという冗談のような発想と同じ愚かさを感じます。

昨日のスチールのサインは、このカウントで走れという命令をしてこそ、もし失敗しても全員が納得できたのではないかと思います。全く弁解をしない選手たちがちょっと可哀想な気がしました。

本日の卓話は、たかはし河川生物調査事務所代表、農学博士の高橋勇夫さんと、「人と川・アユとの関係を良くするために」という題でお話を伺います。

### 高知クラブが心を1つにして支える 関裕司ガバナーエレクト

3月17日 地区協議会

#### ■活動報告他

- ・3月19日(火) 会員増強維持セミナー／東京
- ・3月21日(木)～24日(日) RYLAセミナー／香川・余島
- ・4月20日(土)～21日(日) 地区大会／香川・高松



#### ■本日のプログラム [3月26日] ゲストスピーチ

(有)生活創造工房 代表取締役 大野 加恵 氏 「瑞山記念館リニューアル余話」

● **ロータリーソング** 「我らの生業」

● **今週のピアノ曲** 「出船」 ピアノ演奏：山内りり会員

● **お客様**

長期交換留学生 ルピタ・ロドリゲスさん



◆ **地区協議会のお礼**



・森本征彦代表幹事

先日の日曜日、皆さん本当にありがとうございました。お陰様で、大きな問題もなく無事にガバナーエレクトとしての船出ができました。特に筒井会員は、最近したことない徹夜仕事をしたとのことでした。御苦労様でした。ありがとうございました。



・河野弘訓実行委員長

3月17日には大変お世話になりました。元来、無責任な男ですから、日一日と迫って来るに従って、私のしたことは2つ。1つは小笠原晃男君に丸投げ、もう1つは会場が分散していましたので、お天気がいい状態であるようにと八百万の神に祈ったことです。小笠原晃男会員の奇跡的な手際の良さは、功労者第一だと思います。本当に皆さんに助けられて、長い1日が終わりました。ありがとうございました。

◆ **ご挨拶**



・長期交換留学生 ルピタ・ロドリゲスさん

皆さん、こんにちは。今は土佐女子高校に行っています。みんな本当に優しいです。学校のルールはちょっと厳しいけど、大丈夫です。これから春休みで嬉しいです。

私は水泳部と書道部に入っていますが、書道は本当に難しいです。高知の人は本当に優しいです。西山さんもホストファミリーも本当に優しいです。

● **短期・長期交換事業について**



今年、8月に予定している短期交換留学生の募集を行っています。締切は今月末ですが、高知県の枠がまだ残っています。また、当クラブの伊丹会員がリーダーとして随行しますので、ぜひ、高知クラブからも推薦をしたいと思います。ご協力をよろしくお願いします。

ルピタさんの次の長期交換留学生が決定しました。エバー・グレイザーさんというフレズノ市近郊に在住の15歳です。日本が大好きで既に4年間、日本語を勉強しているとのこと。高知RCは第4ホストファミリーとなります。

● **幹事報告**



- ・森本会員が、入会候補者に対するポケット版高知RC案内を作成中です。
- ・情報集会の日程と会場は今週中にお知らせします。
- ・地区協議会の慰労会を3月26日(火) 6時から三翠園で行います。
- ・例会終了後、新地区補助金奨学金申請者の面接を行います。

● **ゲストスピーチ**

**人と川・アユとの関係を良くするために**

たかはし河川生物調査事務所 代表・農学博士 高橋 勇夫 氏

高知に住んでいると川が傷んでいるという感覚はあまりありませんが、アジア開発銀行の水の安全指数(5点評価)では、日本の採点は生活用水や工業・農業用水など使う方に関してはかなりいい得点を取って

いますが、河川環境は2点です。これは中国と同じレベルで、特に河川の生態系の保全が不十分であるという評価です。

アユは秋に産卵した子どもが冬の間、海で暮らします。そして、春になると川に戻り、夏の間、中流から上流で大きく育ち、ま







た秋に産卵して死んでいきます。アユの最大の特徴は海と川を往き来することで、逆にいうと海と川、流域の山々までの連絡がうまくいってないとアユは減ります。アユは我が国固有の魚で、古くから日本人と馴染みの深い魚ですが、91年、バブルの絶頂期頃をピークに日本経済と同じように急激に漁獲量が減少しています。ただ、対策は随分以前からとられていて、水産庁が、アユの増殖は種苗放流のような積極的な方法で行いなさいという通達を出しています。

では、アユは放流したら増えるのかということですが、高知県の例でいうと、20年間、放流量は右肩上がりで増えていますが、漁獲量は反比例するように減っています。つまり、放流で漁獲量を維持することは難しいことが分かります。アユは生き物ですから、適正に管理さえすれば持続的に資源は続くはずですが、放流による増殖という非持続的な方法をとったためにアユを減らしてしまいました。種苗放流が資源の下支えをしていることは間違いありませんが、放流を通して、人はアユを生き物ではなく物であるような接し方が始まってしまい、ダムを造ってアユが減れば放流をしたらいいといった、川の部品交換のような方法で人とアユの関係が悪化してきたと私は考えています。

しかし、最近、やはり天然アユは大事だということで、全国的に天然アユ主体に切り替える漁協が増えてきました。その中の1つ、高知県の奈半利川には中流から上流にかけて3つのダムがあります。ダムの下流は発電用に水を取られて砂漠のような状態です。もう一つは濁水です。大雨の時に濁った水をダム湖に貯めてそれを少しずつ使いながら発電しますので、上流はきれいになっても放水口からはいつまでも濁った水が流れます。最もひどかったのが昭和60年代で、高知新聞が「赤い奈半利川」という特集を組み、死の川という見出しさえついています。そんな中、2003年の秋、天然アユを守るための調査を始めました。当時の課題として、漁協と電力会社がかなり厳しい対立関係にあり、できることもできない状態でした。ですから、両者の対立関係を緩和していくことがアユを増やすためには必須の条件だと考えました。

アユの産卵に一番大事なものは、自分で動かせるぐらいの小石があることです。調査を始めた当時の奈半利川は、すぐそこに海が見える下流部でも大きな石ばかりでした。ダムを造って50年ぐらい経つと、小さい砂利は海に流されて、残るのは大きな石、アユがひっくり返せる石は見当たりません。そこでまず、産卵場をつくる作業を始めました。アユが卵を産めなくなったのは、ダムを造って川が変わったためですから、電力会社（ジェイパワーさん）に相談して全面的な協力をお願いしました。河床を掘削して、泥をかきだし、産卵の邪魔になる大きな石を除去して水路のような流れをつくり、プラントでふるいにかけた砂利を毎年250㎡ぐらい入れました。最後に人が入って均していきます。これはとても大事な作業で、機械だけではうまく産んでくれません。これもジェイパワーさんにお話す

ると、毎年20、30人がお手伝いをしてくれます。産卵場をつくった効果は、産まれてくる子どもの数を調べることによって確認しています。産卵場をつくった2005年からは数十倍レベルで孵化する数は増えていきます。

産卵場造成に成功したのが2005年の秋ですから、翌年2006年の春の遡上から一挙に増えてくるというのがこの調査のシナリオでした。ところが2006年から3年間、全く増えず、むしろ減るような状態でした。分析の結果、7割産まれた子どものうち、帰ってきたのはわずか3割、早く産まれた魚のほとんどは海で死んでいるということです。海で起こっていることに対策を取るのとは不可能ですので、苦肉の策として、産卵場を造る時期を遅らせることと、回帰率を上げるために漁協の方をお願いして、夏場にアユを捕りすぎない、産卵時期にアユを捕らないという対策をとっていただきました。この効果はめざましくて、4年目からは目標値を大きく超えて安定しました。今年は、今のところの予測値としては、過去最高になると思っています。こんなふうに、科学的なデータを基に対策を講じることで天然アユを増やすことができそうだと、少し胸を張って言えるぐらいになりました。

ただ、こういう作業をしながら思うのは、ダムを造った当初からきちんと対応していたならば、環境評価2点なんてことはなかったと思いますし、ダムがあってもできることはかなりあるということです。天然アユを守るということは、川の生態系を豊かにします。昨年、ニホンカワウソが絶滅種に指定されました。川の生態系を4段階に分けるとニホンカワウソは4次消費者になります。太陽のエネルギーを受けて苔が生産したエネルギーは1万ぐらい。生態学では、1つ段階が上がるごとに10分の1になると言われています。そうするとカワウソに届くエネルギーはわずか1万分の1しかありません。アユは1次消費者で、4次の消費者であるカワウソやウナギに直接摂取される。1万のエネルギーがカワウソに渡った段階で、まだ100も残っている。つまり、川の中にエネルギーのショートカットができて、ダイレクトに上位のものにエネルギーを与えている。こういう回路があったのが、かつての豊かな日本の川だったわけです。

アユ釣りのできる川というのは、本当にいい環境です。経済的価値も大きいし、こういったものを高知県の財産として、次の世代への引き継いで行けたらと思います。



◇ 例 会 変 更 ◇

高知南RC	3月28日	植樹例会(阪)	高知ロイヤルRC	4月 2日	花見昼間例会(旭)
高知南RC	4月 4日	花見例会(阪)	高知中央RC	4月 4日	花見夜間例会(城)
高知西RC	4月 5日	夜間例会(三)	高知東RC	4月10日	時間変更例会(阪)
高知南RC	4月18日	ロータリー休日(阪)	高知西RC	4月19日	ロータリー休日(三)
高知RC	4月30日	ロータリー休日(三)	高知ロイヤルRC	4月30日	ロータリー休日(旭)

※サインメーカーキャップのできるホテル (三)… 三翠園 (城)… 城西館 (阪)… ザクラウンパレス新阪急高知 (旭)… ホテル日航高知旭ロイヤル

◇ 出 席 率 ◇

	総数	出席	欠席	メイクアップ	出席率
3月19日	(-8)87	51	13	15	83.54
3月 5日	(-8)87	58	8	13	89.87
地区大会	87	53	34		60.92

 ニコニコ箱

- 中島 和代 高橋さん、今日はありがとうございました。着々と実績を重ね、日本の河川を元気にしてください。
- 入交 章二 千頭さん、千頭さんがお話をされたとおり、高知ロータリーの仲間って素晴らしいですね。地区協議会前夜のオレンジホールでの会場設営の際のことです。西山俊彦さん、岩井寿夫さんをはじめ大先輩方がおいでくださるだけでもありがたいのに率先して重い段ボール箱を自ら運ばれている姿に私、驚きとともに感銘を受けました。10月の地区大会も心を1つにして成功させましょう。私も尾崎リーダーのもと、今度はゴルフ大会部会で精一杯頑張ってみます。
- 河野 弘訓 先日の地区協では皆様のご協力ありがとうございました。お陰様で今年の1番長い1日を終わることができました。感謝申し上げます。
- 亥角 政春 地区協議会、お疲れさまでございました。今週、高知高専名誉教授、戸部廣康先生の著書「ビールは本当は体にいいんです!」のお陰で、高知新聞社様、RKCラジオ様、テレビ高知様より弊社も取材をしていただきました。ありがとうございます。
- 中澤 陽一 3月11日に仙台空港に降りましたら、ちょうど地元のRCが全国から集めたバナーと新しく設置した鐘のお披露目の式典をしていました。写真を撮りましたので、本日回覧させていただきました。
- 西山 彰一 久しぶりに元気なルピタ・ロドリゲスさんに会うことができました。日本に滞在して7カ月の間、良き友人にも恵まれ、充実した高知での生活を送っています。ホストファミリーとしてのご縁をいただいた事に感謝しております。ルピタさん、ありがとう。
- 藤田 洋子 急に地区協に出席できなくなりご迷惑をおかけしました。

◇3月17日 地区協議会/高知県民文化ホール



● 累計額 [3月19日現在]

ニコニコ箱	878,600円	ロータリー <small>さんさん</small> 燦燦基金	128,048円	ポリオ募金	308,700円
-------	----------	--------------------------------	----------	-------	----------

■ 次週のプログラム [4月2日]

ゲストスピーチ  
セバスチャン コーガ氏

創 立 昭和12年10月  
例 会 日 火曜日 12:30~13:30  
例 会 場 三翠園ホテル TEL(822)0131  
事 務 局 高知市本町3丁目2-15 高知新聞放送会館1階  
TEL(824)8660 FAX(824)2529  
HPアドレス <http://www.221.ne.jp/kochirc/>